

里山資源による地域再生シンポジウムの開催 (北上川上流流域森林・林業活性化センター主催)

1 はじめに

里山資源を活用した地域再生のあり方について、自伐型林業の取組みに着目し、しいたけ原木の生産や広葉樹材の有効活用等自ら経営する森林所有者や地域再生の核となりうるリーダーの育成・支援に向けて、広く議論することを目的に「里山資源による地域再生シンポジウム」を平成26年11月14日から15日に開催しました。県内外から林家等約100名の参加がありました。

(1) 基調講演

山の現場で働くことを基本に捉え、真の森林・林業再生、さらに地域雇用拡大等のため、自伐林業及び土佐の森方式を全国に発信している「NPO法人土佐の森・救援隊」理事長の中嶋健造氏を講師に迎え、「自伐からひらく林業新時代」と題して、ユーモアを交えて話しをしていただきました。「林業は儲からない」が一般化している時代に副業で数百万円を稼ぐ休日自伐林家、年間一千万円以上稼ぐ専業自伐林家等、「儲かるやないか林業は」の事例を挙げながら講演をしていただきました。

(2) リレートーク

NPO法人森林再生研究会の斉藤理事長が先陣を切り、研究会の設立の経緯やボランティア活動を通じ荒れた森林の再生に向けた取組み、実際にチェーンソーを用いた安全の心得についての紹介をいただきました。次に、葛巻町森林組合の竹川理事兼参事から、森林環境教育や広葉樹の活用について実践内容の紹介がありました。最後は、NPO法人吉里吉里国の芳賀

理事長から、2011年の東日本大震災津波後、地域再生・復活に向けた取組みや森・海づくりを通しての雇用の拡大や子供達への地域を思う心を育むための活動紹介がありました。

(3) パネル・ディスカッション

岩手大学農学部の山本准教授をモデレーターとして、4名のパネリストにより講演・リレートークの内容での補足や今後の自伐林業を推進するための意見をいただきました。また、会場からの質問については、事前に質問票を回収し山本准教授からディスカッション形式で丁寧に回答をしていただきました。

(4) 現地検討バスツアー

2日目は、馬搬の森における木材生産を実践している「遠野馬搬振興会」と自伐型林業と薪による熱生産事業を実施している「NPO法人吉里吉里国」の現地に向かい、調査や意見交換をしました。参加者は、馬方が手綱により自由自在に馬をコントロールし、狭い林間でも木材を出せる人馬一体の行動や、森林整備から薪を生産し、熱利用等につなげている取組みに関心を示していました。

2 おわりに

全国的にも「自伐型林業」が注目を帯びてきており、この取組みが林業振興及び中山間地再生へのカギとして大きな可能性を秘めています。今後も情報を集め、地域の林業振興に役立てられるよう取組んで参ります。

